

6 受容から始まる学習指導

☆「聴く」と「聞く」

同じ「きく」という漢字です。どちらも音や言葉が「きく」という意味ですが、「聴く」は注意深く耳を傾けてきくときに使う漢字です。

話し手の声を傾聴してほしいとの思いを込めて、授業で生徒に身に付けさせたいのは、「聴く態度」であることを意識しておくといでしょう。

「能動的に聴く態度」の育成

生徒たちが安心して活動するために、集団づくりは欠かせません。そのためにも、まずは授業を通して生徒に「能動的に聴く態度」を身に付けさせてはどうでしょうか。クラスの全員が自分の発言を共感的な態度で受け止めていけば、話し手も分かりやすく話したい、丁寧に説明したいと思うようになります。また「聴くこと」は、自らの思考を広げ、深めることや、判断材料を増やすという意味においても大切です。このことをしっかり生徒に伝え、日常的に「能動的に聴く態度」で生徒が授業に臨めることを目指しましょう。

教員が聴く姿勢を示す

生徒が発表や発言をしている時、その言葉だけを聞いていませんか。生徒が言葉を発している時には、その内容や思いをきちんと受け止めなくてはなりません。教員がロールモデルとなって聴く姿勢を示すことが、生徒の「聴く態度」を育成する第一歩です。

また、その発表や発言を聴いている生徒たちの思いや、つぶやきも聴くようにしましょう。生徒同士の考えをつなげることは、教員の大切な役割の一つです。

発達支持的生徒指導とは

生徒が自発的・主体的に自らを発達させていく過程を、学校や教員が支えていくという視点に立った生徒指導のことです。効果的な支援のためにも、まずはありのままの生徒の姿を受け止め、理解することに努めましょう。

聴き方のコツを伝えよう

個別支援が必要な生徒への対応を考えよう

自分の話は一方的にするけれど、人の話を聴くことが苦手な生徒がいます。話を聴くときには、うなずく、相づちを打つ、いいと感じたことを伝えるなど、聴き方のルールやコツをメモにして渡しておく、スムーズな話し合いをすることができるようになります。



教科の指導と生徒指導の一体化

授業も発達支持的生徒指導の場であることを意識して、「生徒指導の実践上の視点」の四つの視点を取り入れた学習活動や働きかけを取り入れると良いでしょう。

<例> 「生徒指導の実践上の視点」を踏まえた学習活動

(1) 自己存在感の感受

- ・生徒の発言やつぶやきを積極的に取り上げる
- ・生徒が主体的に考え、行動できる場面を設定する

- 「自己存在感」を実感する場面の設定
- 「自己肯定感」「自己有用感」を育む活動

(2) 共感的な人間関係の育成

- ・多様な考え方に触れる機会を設ける
- ・他者の考えを参照して学ぶ時間を設ける

- 認め合い・励まし合い・支え合える集団づくり
- 理由や方法等を皆で考える、支持的で創造的な集団づくり
- 相互扶助的で共感的な人間関係の育成

(3) 自己決定の場の提供

- ・学習活動や学習課題を生徒が選択できるようにする
- ・振り返りの時間を十分確保し、学習の調整を図らせる

- 自ら考え、選択し、決定する等の体験

(4) 安全・安心な風土の醸成

- ・生徒の発言に間違いがあっても遮らずに最後まで聴く
- ・多様な意見や考えを尊重する態度を教員が率先して示す

- お互いの個性や多様性を認め合う
- 安心して授業や学校生活を送れるような風土を生徒自らがつくり上げるようにする

授業で育む「自己指導能力」

「自己指導能力」とは「主体的な選択・決定を促す力」のことで、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現のために獲得する必要があるとされています。

- ▶ 主体的に問題や課題を発見する活動
- ▶ 自己の目標を選択・設定する活動
- ▶ 目標達成のため、自発的、自律的、かつ、他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する活動

このような活動を継続的・反復的に経験させることで、学習活動を通して自己指導能力を育成することができます。